



10 疏水トンネル洞門石額

琵琶湖疏水の施設の内、一二箇所が一九九六（平成八）年に国の文化財（史跡）に指定されています。一二箇所内、五箇所が山科区内に存在します。

第一疏水には三つのトンネルがあります。それぞれに明治政府要人の筆によるトンネル洞門石額が残されており、当時の疏水の重要性がうかがえます。それぞれが国の文化財に指定されており、山科区内に存在する石額は次の三箇所です。



建物の内外装ともにモダニズムのセンスが先鋭的に表現されている住宅です。

6 後山階陵遺跡

毘沙門堂をさらに北に進むと、後山階陵遺跡・たたら遺跡と書かれた石碑が見えます。日本古来の方法による製鉄をたたら製鉄といいますが、後山階陵遺跡は、製鉄遺跡の一つです。現在では想像できませんが、この地域は奈良時代に今でいう「工業」が盛んであった場所であり、古くから山科の地に人の営みがあったことがうかがえます。



なお、後山階陵とは安祥寺川上流西岸に東面して築かれた円墳で、仁明天皇皇后の陵です。

7 山科疏水と安祥寺川の立体交差

疏水沿いに戻り西に進むと、山科疏水と安祥寺川が立体交差している場所があります。こうした川の立体交差は珍しいですが、これは従来からあった安祥寺川の流れを活かすとともに、山科疏水を京都まで通じるようにするために工夫されたものです。



8 安祥寺・安祥寺上寺

安祥寺は平安時代初期の八四八年に建立されました。開基は入唐僧の恵運であるといわれています。八五六年には、北方五〇町（約五〇ha）ほどが更に寺領となり、山上山下に塔頭七百余を数え、寺領は天智天皇陵以東、安朱・上野・

11 日本最初の鉄筋コンクリート橋

また第三トンネル東側に位置する日本最初の鉄筋コンクリート橋も国の文化財に指定されています。この橋は明治時代の疏水建設にた



第1疏水第3トンネル東口
過雨看松色（かうしゅうしよくをみる）
（意味）時雨が過ぎるといちだんと鮮やかな松の緑をみることができる（唐・盧綸の詩）
松方正義 筆



第1疏水第2トンネル西口
随山到水源（やまにしたがいがすいげんにいたる）
（意味）山にそって行くと水源にたどりつく
西郷従道 筆



第1疏水第2トンネル東口
仁以山悦智為水飲歡（じんははやまをもつてよるこびちはみずをもつてなるをよるこぶ）
（意味）仁者は知識を尊び、知者は水の流れをみて心の糧とする（論語）
井上 馨 筆



鉄筋コンクリート橋の第一号が山科に存在しており、山科は近代建設技術の発祥の地といえるのではないのでしょうか。

ずさわった田辺朔郎が建造したもので、そばには「日本最初の鉄筋コンクリート橋」と書いた記念碑も立っています。現在では全国各地にいても見ることができ

当時の欄干がなかったため現在では左右に転落防止用の柵が設置されています。そのため橋の形状は確認しにくいですが、中央部が盛り上がっているのが分かります。橋自体は老朽化しましたが、まだまだ現役で渡ることができ



御陵一带に広がっていました。安祥寺山の上に建立された伽藍が上寺と呼ばれており、南北朝のころに戦火に遭い焼失したといわれています。

江戸時代初期に毘沙門堂建立のために寺地一〇万坪（約三三万㎡）が削られたといわれ、寺が現在の御陵の地に定まったのは、江戸時代になってからのことです。現在は、寺は非公開となっていますが、木造五智如来座像五体が京都国立博物館に展示されています。



9 旧鶴巻鶴一邸

御陵大岩の疏水南側にある旧鶴巻鶴一邸は、昭和初期のモダニズム建築のさががけとなった建築家・本野精吾の代表作品の一つであり、山科に現存する近代建築史を語るうえで貴重な住宅です。